

『大切なこと、忘れていませんか？』 ～思い起こす～

ヨハネ7：2、31～41

人には「忘れる・記憶の転換」という能力があります。私たちは、感謝や嬉しかったことなど覚えておかなければいけないことを忘れ、自分が精神的に打撃を受けたこと・嫌だったことを覚えたり勝手に記憶を置き換えたりして覚えている…このように脳は働いてしまいます。この構造を変えるために世の中の自己啓発セミナーなどでは「達成感を得なさい」「成功したことを覚えなさい」と言います。成功すると言うことは人から言われたことではないし相手が生かしたことででもないし「自分が自分の力でやったんだ」と思えることで嬉しかったことを覚えておく仕組みです。この中には人からしてもらったことなどは出てきません。人がしてくれたことには感謝をしなければならぬし借りができたなんて思うし…あまり良いこととして覚えません。しかし聖書では2つのことを忘れてはいけないと言っています。①(詩103:1～5)感謝・神さまの良くしてくださったことを何一つ忘れるな、このことを思いなさいと言っています。ダビデ=神に愛されるもの、とされているダビデも自分の仕えていたサウル王から約30年間も命を狙われ、感謝することを忘れそうでした。しかしそこで思い直し24時間賛美できる幕屋を建て3時間おきに感謝と喜びの祈りを捧げ、詩篇が作成されました。ダビデは失敗も罪も犯しましたが神さまに感謝することと悔い改めをすることを忘れませんでした。私たちは感謝できているでしょうか？私たちは1人で生きているわけではありません。だったら周りにおかれている環境に感謝をしなければいけない、だから良いことを忘れるなど神さまは言っています。そしてもう一つ②(申9:5～7)神さまは私たちが過去にした失敗を責めると言っています。神さまの赦しは完全です。また同じ失敗をしてもゼロに戻してください。これが十字架の赦しです。だから過去の失敗を責めるではありません。聖書は懺悔ではなく悔い改めです。罪を犯したら後悔するのではなく、悔いてその道を改めることをやりなさいと書いてあります。あなた自身がその過ちを繰り返すなど言っているのです。だから神さまは聖書の中であなたがした失敗を「覚えよ」(7節)と言っているのです。人は嫌な思いをして「もう2度と繰り返さない」と思っても喉元過ぎれば熱さを忘れてまた同じ過ちを繰り返してしまいます。だから聖書は同じ過ちを繰り返さないように「思い起こせ」と言っています。失敗すると苦しい痛いです。だから1度の失敗で覚えられれば2度と同じ痛みを得ることはないのです。だから神さまはこの2つのこと①感謝・神さまの良くしてくださったことを何一つ忘れるな②自分の失敗を思い起こせ、と言っているのです。それがリスク分散です。自らで同じリスクを招かない、そして周りの人に感謝することで、もしリスクが起きても周りの人から助けてもらえる。これが神さまのされた業です。私たちは1日に1回は今日1日にあったことを思い起こすことができるでしょうか？これがなかなかできません。つい「忙しいから」と言ってしまう。聖書の中でイエス様はどんな状況の中にあっても必ず1日に1回はゲッセマネに退いて自らと神さまとのコミュニケーションをもつようにしていました。私たちはどうでしょうか？自分の行動を5分でも1分でも思い起こすことができるでしょうか？1日自分がとった行動を思い起こして「このことはあの人に感謝だな」「自分は恵まれている」「あれは正しくなかったな」「このことはしないようにしよう」など…祈りの中でこれを行うことによって感謝・悔い改めを思い起こすのです。神さまはそれをせよと言われていました。(ヨハネ7:2,31～41)「仮庵の祭り(Sukkotスコット)」とは「仮の住まいの祭り」と言う意味で、仮庵を建ててそこに7日間住んで自分たちの先祖たちがどのような暮らしをしていたのか思い起こす…そういう祭りです。モーセが紅海を真っ二つに割り出エジプトした時代の祭りです。イスラエルの民がエジプト脱出のとき荒野で天幕に住んだことを記念した祭りです。エジプトでの奴隷生活から奇跡を受け救われました。しかしイスラエルの民は40年間荒野をさまようことになります。奇跡により救われたにもかかわらず「エジプトでの奴隷生活の方がマシだ」と言ったり、「水が欲しい、肉が食べたい、暑い、寒い」などの文句に対して神さまがことごとく応えてくださったのにそれでもまだ文句を言い、挙げ句の果てにはモーセが石盤を頂きに行っている間に金の仔牛を作り偶像礼拝してしまっていました。だから「あなた方は主に逆らいどおしであった」(7節)と言われました。私たちも弱いものでこのイスラエルの民と同じことをしてしまいがちです。こんな私たちに神さまは「失敗を繰り返すな」と言っています。神さまはこのことを思い起こさせるために年に1回仮庵の祭りをやりなさいと教えてくださいました。この祭りは収穫感謝のときにします。嬉しいときにこそ「自分の力で今の環境があるんじゃない」「失敗ばかりの自分だけど、助けられ支えられ、神さまに導かれたおかげで成功できた」と感謝しなさい、自分たちの先祖がどれだけ失敗してきたのかを思い起こしなさいと教えてくれる祭りです。ところがイエス様に時代には、この自分の失敗を思い起こすはずの仮庵の祭りの頃にパリサイ人は、自分たちの欲や虚栄のためにイエス様を殺そうとしました。これはエジプト(=肉の意味)の民がやっていたことと同じです。自分たちもこのパリサイ人と同じです。自分に対して誹謗中傷する人を「こんな人いなければいいのに」と思い、虚栄の心から罪を犯してしまいます。しかしイエス様は、この心を責めてるのではなく、この弱さを共に分かち合って十字架にかかれたのです。だから私たちはその弱さをもう一度捨てて自分を省みなさいと言われていました。だから今の環境がどれだけ感謝なものなのか、周りの人が自分たちにどれだけのことをしてくれていて、そんな人を遣わして神さまがどれだけ守ってくれているのか感謝し思い起こさなくてははいけません。もう一つは自分たちが同じ過ちを繰り返さないためにその失敗を見なさいと言われていました。だから、私たちが忘れてはならないことは、①いのちの泉が湧き出ていることです。私たちの犯した罪を背負い身代わりとなってくださった方がいるのです。イエス様は「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与える水はその人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」(ヨハネ 4:14)と言われていました。私たちは渇かないと言われていました。私たちは渇く心から虚栄を求めてしまいます。神さまは、人と比較してしまうような私たちの弱い心に渇かない水を差し入れようとしているのです。サマリヤの女の話もあります。(ヨハネ4:7～42)私たちがもし心の中に抱えている苦しみや葛藤、病を神さまにゆだねることができれば私たちの見る目は変わります。今まで人を裁いていた目が赦す目になり人を憎む目が愛する目に変わります。自分が痛んでいたから人を痛む目で見っていたのです。愛された人は多く愛します。(ルカ7:47)姦淫の罪を犯した女がイエス様に赦されます。(ヨハネ8:1～11)そしてこの女は赦されたことを通してイエス様に尽くします。そこでイエス様はその光景を疑問に思っている民に対して、『わたしは「この女の多くの罪は赦されている」と言います。それは彼女がよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』私たちは愛されたこと・赦されたこと・大事にされたことを知ると初めてこれらができるようになります。私たちの心から泉が湧き出るようになります。私たちが赦す人がいて、今私たちの隣にいる人は私たちが愛する人です。次のポイントは②失敗を繰り返さないことです。私たちは愛されたこと・赦されたこと・大事にされたことを知り、もう人を憎むまいと決めますが、忘れてしまってまた同じ失敗を繰り返して元に戻ってしまいます。だから、自分がどういう状況にあったのか、そしてどれだけ感謝だったのか毎日思い起こさなくてははいけません。そして③1人ではないことを覚えておいてください。人は1人で生きているわけではありません。神さまが教会を重んじている理由です。私たちが赦しあい支えあい、そして相手のことを大切に思うそれが教会の意味です。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」(マタイ22:37,39)と聖書は言っています。どうして神を愛せよと言うのかというと、神さまが自分のために命をかけて愛してくれたその愛を知るためです。そしてその愛を知った人はその愛をもって隣の人を愛しなさいと言うのが神さまの命令です。そしてこの命令は重荷にはなりません。「すべて、疲れた人。重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)と言っています。神さまは礼拝でまず、私たちが休ませてくれて楽にしてくれたのです。礼拝をもってきた自分の重荷を教会において神さまに委ねて帰り、いつも共にいてくださる神さまと共に出行き、多くの人に自分の受けた愛を流しましょう。私たちは1人ではありません。いつも私たちは神さまに支えられています。私たちがたとえそれを拒もうとも「わたしはあなたと共にいる」と神さまは言っています。(創28:15)私たちはこのことを忘れてはいけません。この3つのポイントをおさえると私たちは必ず大きな問題から逃れることができ、私たちの心から湧き出る泉の水を飲む多くの人が感謝することができます。愛されたことを知り愛す人生に変えていきましょう。(要約者：行司佳世)